

## いくつといくつ？

1年生の教室の様子です。

黒板には大きく「7のいくつといくつをかえよう」と書かれていました。机の上には数図ブロック。子供たちは、小さなブロックを動かしながら、「7は5と2」「7は3と4」「1と6もあるよ」と、数の分け方を一生懸命に考えていました。

大人から見ると、「7を分ける」という学習は、とても簡単なことのように見えるかもしれませんが、しかし、この学習には、算数として大変重要なねらいがあります。それは、数を単に順番に唱えたり、ものを数えたりするだけでなく、数をまとまりとして捉え、分けたり合わせたりする力を育てることです。

算数では、一つの数をいくつかの数に分けて捉えることを「数の分解」と言います。また、分けた数を合わせて一つの数として捉えることを「数の合成」と言います。1年生の「いくつといくつ」は、数の合成・分解を通して、数の構成を理解する大切な学習です。「7は5と2」と分けられることは、やがて「 $5 + 2 = 7$ 」や「 $7 - 2 = 5$ 」という式の意味を理解する土台になります。さらに、繰り上がりや繰り下がりのある計算では、「10のまとまり」をつくって考える力にもつながっていきます。

授業では、子供たちが数図ブロックを実際に動かしながら考えていました。算数では、具体物を操作し、図や言葉で表し、やがて式へとつなげていく過程が大切にされています。いきなり頭の中だけで考えるのではなく、目で見て、手で動かして、「あっ、そういうことか」と実感する。その積み重ねが、確かな理解につながります。子供たちの小さな手の中で動くブロックは、まさに数の世界への案内役でした。



そして、この日の教室には、もう一人？いや、もう一匹？頼もしい案内役がいました。パペットの「モフフ」です。担任の先生の手作りだそうです。モフフが登場し、一人一人に声を掛けると、教室の空気がふっとやわらぎました。モフフに見つめられると、子供たちも思わずにっこり。私も、ふふっと自然に笑みがこぼれました。(いつか校長室にも現れて、「かめお」とのコラボが実現するのでは！？と期待しています)

もちろん、これは単なる楽しい演出ではありません。1年生にとって、「やってみたい」「答えたい」「もっと考えたい」と思えることは、学びに向かう大切な入口です。先生は、子供たちの発達段階に合わせて、安心して考えられる雰囲気をつくり、具体物を用意し、問いかけを工夫しながら、算数の本質へと導いていました。楽しさの奥に、しっかりとした学びの設計があります。

「いくつといくつ」の力は、日常生活にも深くつながっています。お菓子を友達と分けるとき、買い物でお金を組み合わせるとき、残りの数を考えるとき、私たちは

自然に数を分けたり合わせたりしています。算数は教室の中だけにあるのではなく、生活の中に息づいています。

小さな「7」の中に、いくつもの考え方がある。その発見こそ、算数の楽しさの始まりです。子供たちは、ブロックを動かしながら、7の分け方を次々と見つけていきました。6と1。5と2。そして、4と3。

算数の言葉で言えば、これは「数の分解」です。しかし、子供たちにとっては、ただの用語ではありません。一つの数を、いろいろな見方で捉えること。目の前のものを、別の角度から見つめ直すこと。その小さな発見の積み重ねが、考える力を育てていきます。

散田小学校で大切にしたい学びも、まさにそこにあります。一つの答えにたどり着くだけでなく、そこまでの見方や考え方を大切にすること。自分の手で確かめ、友達の考えに出会い、もう一度考え直すこと。つまり、解決までの「未知の道」を楽しむことです。

数の世界への入口で、1年生は今日も大切な一歩を踏み出しました。

散田小学校の教室に、子供たちの発見の音が響きます。

そう！「7は4と 3だ ！」

今日も、おやしギャグ的な 文かい！ と、おっしゃらずにお読みいただきありがとうございました。